

和歌丁之會席事

一當目々のく懐紙と持参する  
乳限子當座あり時ハ主人顯  
者以下只とくく進参す懐紙  
なり必事

一懐紙講之時分當座乃人各の  
懐紙と云ふ所法々々次参に重て  
之上小短冊と置入文具は是  
て本尊の前子並之焼香次第  
こし次讀誦人文具は右在る  
より右方に着座して讀誦人  
寸許誦神文具前子すむ懐紙  
讀誦次第人

神文具是のく此懐紙同短冊と  
て我右方よりいさの下子より  
三分より進参んはやくとハ文具  
より進参んはやくとハ文具

て我右方乃いさの下よきしといふ  
三分の二も是也んやくといふ其至  
乃よきよとよんてえくといふ下篇  
より一法と並べ次がうこ世とあり  
おま先より法より次子作者次題  
次子也 必幸

短冊乃時の先題次作者次子  
なりいつ抄々題いやとけくすむ  
立春の節の方 初春のふくむの節  
早春のふくむの節と並べはるの節  
霜降鷹のふくむの節と並べはるの節  
と並べ他は文字題を時の依事  
かゝる子あまもすせりてくす  
かゝる春軸乃子とよきはるの節  
志りうに也 板講とて讀碑  
も乃やうよ又其ま子際紙と並べ志  
り也く也はるの節の役人又とて  
又其まとて便在代取よ並也

一 次第事 二 讀碑 三 教解 三  
講碑也凡かゝる節の役人  
但あなうらにはるの節

一 次第事 二 讀陣 三 教群 三

講陣也凡此等事並次第の役なり

他ある所に此の事ある處あり

一 懐紙用括事

らこいこの上と同方のうけとを能

同やうにさし置くは是端は流る

るべく多くしる也

短冊ならやう孝の志と別など

なり事ありこれの上と本はしき

些ありて用なり

一 披講事 凡甲し三堂の物なり

三堂とい枚ハ甲乃位の襖子の也

け也ハ周物也

春多川とい枚なりまやみすれ

甲 山より守りてなきハ及越らむ

春多川とい枚なりまやみすれの

山より守りてなきハ及越らむ

甲 春多川とい枚なりまやみすれの

春多川といぬりまやみりた  
甲 山七守りてなきハ及越らむ

春多川といぬりまやみりた  
し やまのすえんて年さハ三越らむ

三重甲の位子月

右一巻依細河右京地御所  
書く不<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>神令儀者也

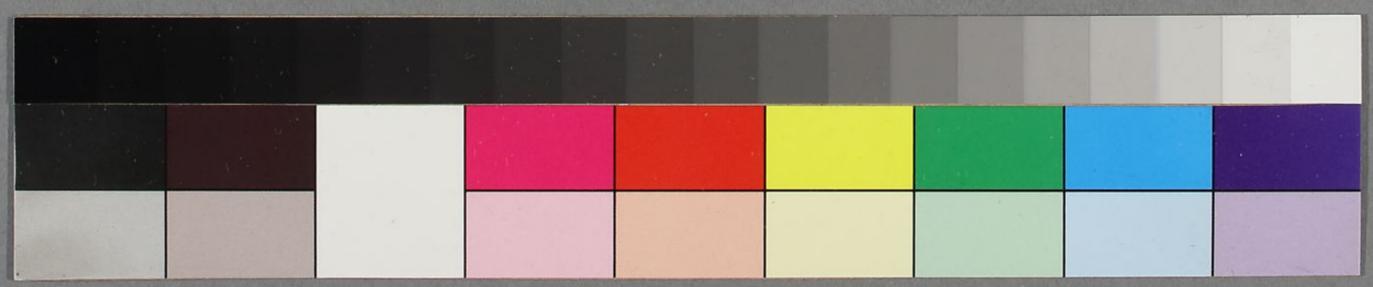
宋世

右一卷依細河右京地御所  
書之石上有神令儀表也

宋世



特別  
A4  
8272





和歌丁之會席事

一當日のつく摺紙と持参し  
乳限子當座あり時ハ主人顯  
者以下只とくハ進寄ハ摺紙





特別  
A4  
8272



飛鳥井 宋世

和歌之會席事！紙本墨書。

和歌會席の模様を茶と詳述し、

巻末に披講の様子を八冊と付した和歌とあけて  
例示し、宋世奥書有り。

和歌會席事。紙本墨書。一卷。

和歌會席の模様を茶と詳述し、ハカセを付  
した和歌と例示して披講の様を説く。巻末に宋世  
の奥書有り。

紙本 巾四寸 長九寸  
絶紙に全銀粉に押紙、墨添紙入  
巻末に會席巻子装



一 龍舟社原 正嘉靖年

宋世

飛鳥井  
宋世筆和歌之会席事

No. 469

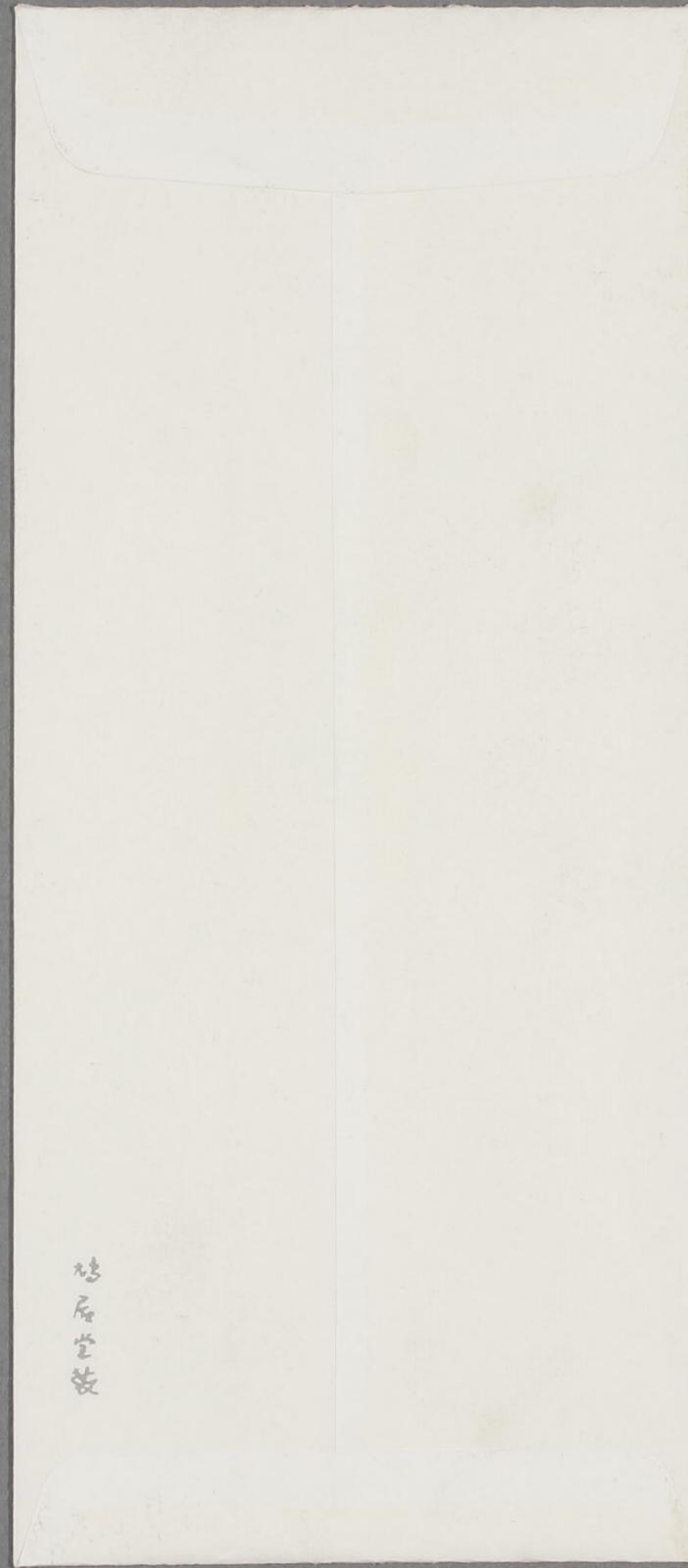
綴身并  
来世芋

和歌之会席事

金  
二十五万  
円

株式会社 思文閣

本社 京都市東山区古門前通大和  
東入元町  
TEL075-541-4181(代)  
東京店 東京都中央区銀座6-11-10  
TEL03-574-7787(代)  
名古屋店 名古屋市中村区名駅5-4-14  
花車ビル北館3階  
TEL052-386-2287(代)



德  
后  
堂  
啟